

1. 件名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（柏崎刈羽原子力発電所7号炉 設計及び工事の計画）【194】
2. 日時：令和2年5月22日 13時30分～15時40分
3. 場所：原子力規制庁 8階A会議室（TV会議システムを利用）
4. 出席者（※・・・TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

新基準適合性審査チーム

江寄企画調査官、岸野主任安全審査官、津金主任安全審査官※、
植木主任安全審査官、羽場崎主任安全審査官※、三浦主任安全審査官、
宇田川安全審査官※、小野安全審査専門職、服部安全審査専門職※、
山浦技術参与※

事業者：

東京電力ホールディングス株式会社

原子力設備管理部 建築総括部長 他18名※

5. 要旨

(1) 東京電力ホールディングス株式会社から、柏崎刈羽原子力発電所7号機の工事計画認可申請書のうち耐震性に関する説明書について、令和2年5月14日、5月19日及び5月20日の提出資料に基づき説明があった。

(2) 原子力規制庁から、主に以下の点について説明等を求めた。

【地震荷重と風荷重の組合せの影響評価について】

- 地上高さ10mでの風速を設置高さの異なる施設等へ適用することについて、設置高さが高くなることによる風速の割増しの考え方を整理して説明すること。

【原子炉建屋基礎スラブの耐震性についての計算書に関する補足説明資料】

- 各壁部材の剛性低下率について、解析上の取扱いを説明すること。また、コントロール建屋について、はり要素の断面性能に適用した剛性低下率の対象を説明すること。
- 基礎スラブのモデル化で考慮する中間壁及びボックス壁について、多点拘束の設定条件を説明すること。

【原子炉建屋の地震応答解析における補助壁の曲げ変形について】

- 補助壁の曲げ変形を考慮したせん断断面積の算定について、算出された補助壁の等価せん断断面積を外壁及びRC CVと分離して説明する

こと。

【原子炉建屋の地震応答解析における側面地盤からの回転入力について】

- 今回工認モデルと回転入力モデルで最大応答変位に差異が生じている理由を説明すること。

(3) 東京電力ホールディングス株式会社から、本日の説明等を求められた内容について了解した旨の回答があった。

6. その他
なし